

ホール運営や企画についての着眼点

着眼点	他自治体の事例
1. 施設設備	<ul style="list-style-type: none"> ①自治体の規模に合った規模（客席数、ホール数） ②小ホールから平土間式へ多目的に使用できるホール（収納可能なロールバックチェア、昇降床など） ③リハーサル室、練習室、スタジオ、楽屋の充実 ④音響、舞台、照明、吊物等施設設備の充実 ⑤小規模ホールや展示施設の併設
2. 指定管理による管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ①長期雇用、地元採用（非公募による指定管理の場合） <ul style="list-style-type: none"> ・経験値の蓄積、市民との信頼関係の構築 ・経験者の雇用による人脈や人材を活用した企画 ②自主事業や文化祭や展示などの文化事業も委託。 ③指定管理会社のネットワークによる多様な企画
3. 特色のある取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ①友の会制度の充実 ②市民を巻き込んだ運営（財団市民サポーター） ③文化事業開催の相談窓口 ④イベント企画の募集と運営サポート ⑤空き時間の有効活用と利用の活性化（ピアノの日、フリーステージの日、ロビーコンサート） ⑥公演後アンケートのインターネット回答実施
4. 効果的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ①ホール独自の HP があり、欲しい情報に辿り着きやすい ②使用する側（演者等）に視点を置いた情報発信（施設の詳細情報、配置図、平面図、断面図、設備一覧、施設の空き状況など） ③観客側の視点に立った情報発信（定期的なイベント情報、チケット情報、周辺施設や駐車場情報） ④興味を持ってもらうための情報発信（イベントの詳細情報、過去のイベント情報や実施後のレポート、情報誌のバックナンバー掲載） ⑤情報誌の郵送（友の会会員対象）とインターネット掲載（一般対象）の併用 ⑥各種 SNS を利用した情報発信